

ミランダルマスタリ学校訪問記

特定非営利活動法人 ミランクラブジャパン
理事長 マナンダール マダーブ ナラエン

8月、3週間の予定でネパールへ帰国した。帰国目的は別のものではあったが、忙しい合間を縫ってダルマスタリ学校を4回訪問した。

学校はカトマンズから約7Km北に位置する小さなダルマスタリ村にある。小高い山や緑に囲まれたのどかな農村地帯の静かな環境は勉強するには良い環境だ。カトマンズ町からそう遠くないことから、必要に応じて町に出ることもできる。ローカルバスも1時間に一本走るようになり、以前から比べれば便利になった。賑やかで人も車も多く排気ガスや埃だらけのカトマンズ町から行くと、とても癒される。

今回の移動はローカルバスも使ったが、片道20分程、往復約千円で行けるタクシーを多く利用した。帰りの時間に合わせ待ってもらっての値段だ。

学校の成り立ちを簡単に紹介させてもらう。

ダルマスタリ村に限ったことではないが、村の識字率は大変低い。このことから2001年に岐阜淡墨ロータリークラブの支援のもと、一人でも多く一日でも早く子供たちが教育を受けられるようにと小学校を建てた。

それから15年、地域の父母たちから毎年のように自分たちの子供を同じ学校で進学させたいとの強い要望があり、毎年一学年ずつ増やし、現在は高校までの一貫教育の場となっている。周辺の村々からも多く通って来ている。

学校の教育は質が高く、毎年の難関、全国統一高等学校卒業試験(SLC)に良い結果を出している。合格率は毎年100%の実績である。現在、生徒数は394名、教職員は25名となっている。学校は自主運営で成り立っている。

学校敷地内には日本のフォトボランティアグループによる職業訓練所(年に1~2回職業訓練を行う)、広島祈りの石による寄宿舍(現在19名の寄宿生と3名の職員)、彩の国さいたま国際交流協会による図書室(司書1名、図書約5,000冊)がある。

学校は2014年4月25日のネパール大地震で全ての建物が影響を受けている。

私の訪問1回目はネパール到着2日後で保護者会参加と遅れていた卒業式への参加だった。

午前中70名ほどの保護者が集まり会議を行った。議題の中心は、学校の安全と教育制度だった。彼らは被災した校舎を使うことを心配していた。子供たちが安心して勉強できるよう何か対策を考えてほしいと繰り返し訴え続けている。その他にもできる範囲での学校設備の充実や運動場の新設を望んでいた。教育に関しては英語での教育を希望した。



保護者会に参加

私は学校の責任者ということもあり、学校の状況と運営について丁寧に説明し、今後より良い学校にするための努力をすると伝えた。集会の最後に保護者の代表は、ミランクラブジャパンからの義援金のお蔭で、すぐに仮設校舎での授業再開ができたこと、地盤沈下で壊れたトイレも修理して使えるようになったこと、被災者へ義援金付与してもらえたことなどを挙げ、感謝の言葉で締め括った。

午後は、今年卒業し、全国統一高等学校試験 (SLC) に合格した生徒たちを送る会を設け、将来の目標が達成するよう励まし、卒業証書、記念品などを授与した。その後の懇親会では歌ったり踊ったりと軽食も用意され、あっという間の2時間だった。



卒業証書、記念品授与

2回目はネパール教育局カトマンズ北地区教育委員会からの定期視察に合わせ訪れた。ミランダルマスタリ学校は現在10年生(高校)までである。しかしネパールの新しい教育制度では、現在の10年生までである学校は10+2(高校+短大)の学校にすることができる。それには教育委員会の推薦と新設申請が必要になってくる。10+2に移行しない場合は8年生(中学)までの学校としか認められない。この制度が全国に行き渡った後は10+2の呼び方はなくなり、短大は高校に組み入れられる。この問題点について意見交換を行った。委員の方々からは、ダルマスタリ学校敷地の十分な広さや、今までの学校業績を考えた場合、10+2に移行するのが良いとアドバイスされた。しかし学校設備や教師の充実などの問題を指摘された。

3回目は遅れてネパールに到着した日本の家族と一緒に訪問した。

図書室でマナンダールまや20年?振りに教科書と再会



日本から持参した品々を直接、教職員の方々に手渡したり、現地滞在中の武藤さんが授業で使えそうな物を渡したり、古着など後での配布を託したりもした。当日は各施設や各クラスを視察し、生徒たちとも言葉を交わした。



クラス訪問、ナマステで出迎え

4回目の訪問は保護者代表との打ち合わせのためだった。代表からの要望は以下の通りだった。

・学校のトイレ整備

震災後、修理して使えるようにはなかったが、タンクに亀裂が入り汚物が漏れ、悪臭を放っている。

・子供たちの安全環境

壊れた遊具は放置せず、撤去するか新しく安全なものを設置してほしい。

・学校の敷地をフェンスで囲む

部分的にはあるが、学校敷地の外に出て行ってしまいう子供もいるため、全部を囲ってほしい。

・授業を英語で行ってほしい

校内では授業はもちろんのこと、全て英語での生活にしてほしい。

今回はいつもより多くの訪問となってしまったが、その度に会える子供たちの学ぶ姿を多く見ることができ、嬉しくもあった。

一昨年の大地震で学校の一階部分は地下から吹き上げて来た水が掃けず、一部使えない状態にある。教室の梁や壁のひび割れは応急処置のままになっている。この後どうしたらいいか考えなければいけない時期にきている。子供たちの安全を心配しながら現在は授業を進めている。